

GILC ツーソン 2019 のご報告について

JGS 監事 古屋 正貴
日独宝石研究所 所長

GILC (ICA による宝飾業者および鑑別機関の会議) がツーソンの展示会に合わせ開催されました。

注目された講演をご紹介します。

○ロータスラボラトリー・ビリー・ヒューズ氏 「ラボによるカラータイプの考え方」

ロータスラボラトリーのビリー・ヒューズ氏からピジョンブラッド、ロイヤルブルーなどのカラータイプについて見方の考え方が紹介された。同社ではコーンフラワーやピジョンブラッドなどの定義は同社ホームページに載せているが、科学的ではない叙述的な定義を用いている。

ダイヤモンドのようにマスターストーンは使っていない。ダイヤは多色性がなく、組織が均一で、色むらもなく、目に見えるインクルージョンもなく、形もラウンドだけだ。しかし、色石は全てが逆で厳密な意味でマスターを揃えるのは不可能である。

また、科学的な特徴については、色石はモザイクのようなものでダイヤのように均一ではなく、色の表現系である RGB も CMYK も不十分で、化学組成を調べても何の役にも立たないし、蛍光を見ても業者は紫外線ライトの下で色を見るわけではない、ライトも太陽の下でこそ、美しく蛍光灯の下ではその美しさが感じられないのが色石である。

このような理由から、同社では叙述的な定義を元に、鑑別士の目による判断を用いている。

○ギュベリンジェムラボ・ローラ・キーファート氏

ギュベリンジェムラボのローラ・キーファート氏から、LMHC のサ

ファイアの加圧加熱の扱いについて考えが紹介された。

加圧加熱を通常の加熱と別に扱うかについては、AGTA の開示基準である、1) マーケットで増えているのか、2) これまでの加熱と違い、特別外観が向上しているか、3) なにか他の元素を入れているのか、4) 鑑別上の特徴があり、分かるのか、5) 通常の加熱よりもろく、特別な扱いが必要か、というポイントに則って、検証結果が示された。

Q1) マーケットで増えているのか

A) 増えてない。スリランカの処理業者もこれまでの5年間で1000pcほどやったくらいで、市場ではほとんど見られない

Q2) これまでの加熱と違い、特別外観が向上しているか

A) 通常の加熱と同じくらい。フラクチャーが溶けて透明度が上がることも出来るが、これは既存の加熱と同じで、インクルージョンについては結晶が割れたり、酸化鉄が真っ白になるのはこれまで通り。

Q3) なにか他の元素を入れているのか

A) 特別何らかの別の添加物は持ちられておらず、検出されていない。

Q4) 鑑別上の特徴があり、分かるのか

A) FT-IR で 3040cm^{-1} に特徴的な吸収バンドがあり、鑑別は可能である。

Q5) 通常の加熱よりもろいか

A) 加熱処理後には表面が溶けるため、そこはリポリッシュする。そうすれば変らない。超音波、酸、落下、熱などに対する耐性はすべて普通の加熱と一緒にある。

以上のことから、分ける必要はないと考えるという考え方が紹介された。